

令和3年度 福井農林高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習支援 教務部	①ICT機器の機能を有効活用し、生徒が主体的に学ぶ授業の工夫を推進する。 目標：ICT機器を活用するなどして、授業づくりの改善に取り組んだ教員80%以上 ②各教科・学科で自主教材を作成したり、個別に対応したりして、分かる授業の推進や学習の遅れのある生徒への配慮を図り、生徒の授業への満足度を高める。 目標：授業満足度80%以上	・学習アプリやソフトウェアを駆使した授業実施は多くないが、タブレット導入を機会に、調べ学習、学習の記録や発表資料作りなどでの活用が増加した。オンライン授業試行や研修などを通して、77.3%の教職員がICT機器利用を試し、授業改善やスキルアップに取り組んだ。 ・生徒の88.4%が授業に意欲を持って取り組めたと回答している。保護者も89.9%が本校の授業に満足している。ICT活用だけでなく、個別対応や学習の遅れのある生徒への教材工夫などが功を奏していると思われるが、欠点保持者や教科特別指導に応じない生徒が増加した現状もある。今後も生徒の現状に即した指導により理解度を高める努力を継続する必要がある。	・ICT機器を活用した授業作りについては、今後もICT支援員巡回を活用したり、ニーズに応じた校内研修を実施したりするなどしてスキルアップを目指していく。 ・学習習慣の定着と基礎学力・学習意欲の向上を図るために、指導計画や評価の在り方を検討し、今後も、生徒の実状に応じて、習熟度別の授業や個別指導も行っていく。 ・学習の遅れのある生徒の指導については、学年会や学科会とも連携をとり、学校全体での取り組みを図っていく。
2 生徒支援 生徒指導部	①社会生活における基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識を高めさせる。 目標：全生徒の規範意識向上100%達成 ②学校行事や部活動に生徒自らが主体的に取り組もうとする態度を培わせる。 目標：学校行事・部活動への参加意識100%達成	・「主体的に取り組もうとする態度を培わせる」の目標については、全教職員が共通理解して指導することができた。「規範意識を高めさせる」については、教職員のさらなる生徒への支援が必要と思われる。 ・「学校行事や部活動に主体的に取り組めていない」と回答した生徒が5.5%、「子どもが積極的に学校行事や部活動に取り組めていない」と回答した保護者が9.5%とやや気になる数字であった。	・学年会・学科会との連携を図り全教職員が組織的に取り組み生徒支援を継続することにより、コミュニケーション能力や社会生活を送る上での規範意識の向上、主体的に取り組む態度の育成を図っていく。 ・規律意識を高めさせる指導については、家庭との連携をさらに深めながら生徒の意識を変えていけるよう粘り強く取り組んでいく。
3 進路支援 進路指導部	①生徒の進路意識形成を目指し、総合探究・LH等の時間の活用により計画的に進路指導を実践する。 目標：総合探究や進路指導の達成度自己評価アンケート80%以上 ②全校体制によるきめ細かな進路指導を行い、個々の生徒の進路実現を図る。 目標：進学就職希望100%達成	・生徒・教職員・保護者についてそれぞれ目標値を超えることができた。生徒の進路目標の設定割合は昨年よりも2.3%向上した。保護者の理解についても1.8%向上した。教職員による企業訪問や面接指導などの実践については昨年度並の達成率であった。 ・保護者が子供と進路について十分話し合っているかについては、全体では84.0%で目標値は達成している。3年生では96%を超えているが、下学年ではその割合は低い。	・学年会や学科会と連携し、進路希望調査や面談、基礎力診断テスト等を通して入学当初から生徒の進路意識が高まるよう取り組みを充実させていく。 ・教職員が生徒一人ひとりの進路情報の共有化を一層進め、企業訪問や面接指導などに活かしていく。 ・最新の就職・進学状況や卒業生の実績などの進路情報を、生徒集会やホームページを利用して、生徒および保護者に周知していく。また保護者対象進路説明会については、コロナ感染症対策を徹底するなど工夫して実施する。
4 図書指導 PTA活動 安全管理 図書庶務部	①図書館利用者及び図書貸出数の増加を図る。 目標：年間貸出1500冊以上 ②学校教育活動について保護者への積極的な情報提供を行い連携を深める。 目標：HPの既読80%以上 ③避難訓練や防災や安全教育などを通して生徒の防災意識や安全意識を高める。 目標：生徒の防災・安全意識80%以上	・目標の図書貸出冊数には1月時点では到達していないが、これまでに約1,200冊の貸出がある。3学期の読書会や学年末の朝読書で目標達成できるよう、引き続き読書活動の推進を図ってきたい。 ・図書館についてはWiFiが完備されたこともあり、タブレットを用いた課題研究などの調べ学習やグループ学習、定期考査前の学習など、様々な形で利用されている。 ・「グリーンメール」がなくなったことで、大会や行事の記録や写真、教職員からのホームページへの掲載依頼が増えた。YouTube「福農チャンネル」を開設したこともあり、生徒だけでなく保護者、中学生へ多くの情報発信をすることができた。 ・全校生徒・教員対象の避難訓練（防災訓練）や防災教育を実施したことで防災意識は高い。	・入学時に図書館利用オリエンテーションを実施することで、早い段階から図書館を利用してもらえるように配慮する。新着図書を紹介や図書配架の工夫を行い、より多くの生徒が本に興味を持てるよう努めていく。学期毎の読書会、期末考査後の朝読書でも図書館の本をより多くの生徒が利用できるよう工夫する。 ・学校の情報を発信するうえでホームページの重要性が今後ますます高まっていくと考える。新しい情報、必要な情報をリアルタイムに発信できるよう、素早い更新に努める。 ・全校での避難訓練、教職員の防災訓練、防災教育を継続することで、防災や安全意識を培っていく。
5 保健管理 保健部	①健康的な規則正しい生活を送り、心と体の健康について自己管理の徹底を促す。特に、新型コロナウイルス感染症予防を徹底させる。 目標：健康管理を心がける80%以上 ②快適で清潔な学習環境の整備のため、毎日の一斉清掃の徹底を図る。 目標：校内環境美化活動に意欲的に取り組む80%以上	・自らの健康管理を心がけることができた生徒の割合は89.0%で、2年連続目標の80%を上回るとともに過去最高を更新した。家庭で生徒自らが健康管理に努めていると認識している保護者も85.0%で、2年連続目標の80%を上回るとともに過去最高を更新した。教職員による健康管理についての注意や喚起も90.9%で、新型コロナウイルス感染症予防を徹底する取り組みを行っていることにより、健康管理への意識や関心が全体的に向上している。 ・校内美化活動に取り組んだ生徒の割合は89.5%で、6年連続で目標の80%を上回った。学校の環境美化に対する保護者の満足度については94.8%で、高い状態で推移している。教職員の清掃指導・監督の実施についても100.0%で、かなり高い状態で推移している。	・自らの健康管理を心がけることができた生徒の割合を高めるため、医療従事者や養護教諭からの講話の企画、入学時は保護者対象の保健指導、保護者懇談会などで健康管理について話題になるようすすめていくなど、従来からの取り組みを継続していく。 ・生徒の校内環境整備への意識をさらに高めるとともに、毎日の通常清掃の徹底を図るために、保健委員会の活動として清掃中の見まわりを継続実施していく。
6 スペシャリストの育成 実習部	①課題研究や校外実習・学校行事などを通して、地域や産業界等との交流に取り組み、地域連携を深める。 目標：教員が地域との交流の大切さや農業の素晴らしさを生徒に伝える80%以上 ②資格取得を通して、生徒の学習意欲を向上させ、学科の専門性を高める。 目標：卒業時に福井フューチャーマイスター「ゴールド」70%以上認定	・今年度は、4月より感染予防対策を続けながら学習活動ができていたので、例年同様にインターンシップや校外での活動ができた。 ・農文祭など行事の縮小などもあり、制限がある中で地域交流活動に取り組めた。 ・本年度の卒業生の福井フューチャーマイスター取得状況はゴールド以上が70.3%（昨年58.5%）と2年次のインターンシップが実施できなかった中ではあるが、資格取得や地域交流に積極的に取り組み、成果を上げることができた。	・学科主任会議や実習会議において、定期的に地域や外部連携に関する話題や情報の提供を行い、教職員の積極的な活動をサポートしていく。 ・資格取得は学科間や難易度によって差があるが、各学科で3年間の取得目標を持たせ、入学時より生徒・保護者に働きかけて、計画的な取得を促す。 ・「福井フューチャーマイスター制度」の「プラチナ」「ゴールド」の認定に向けて、生徒に学校生活全般の過ごし方を振り返らせ、保護者には資格取得の意義と検定料負担への理解が得られるように説明していく。
7 いじめ防止 いじめ対策委員会	①ホームルーム活動や学校行事、部活動等の集団行動を通して、全生徒が思いやりや助け合いの心を育てる。 ②アンケートを実施し、面談やカウンセリング等を通して、いじめの早期発見と早期解決を図る。 目標：いじめの早期発見・早期解決への取り組みについて、満足度80%以上を目指して指導する。	・思いやりや助け合いの心については、生徒93.9%、保護者93.8%、教職員100%ができており、目標を達成することができたと思われる。 ・同級生や先輩、後輩に思いやりや助け合いの心を持って接することが、ほとんどできない生徒が0.9%と若干少数ながらいる。 ・いじめについて伝えられる生徒は、生徒全体では87.2%と目標値に達した。 ・いじめ対策については、保護者92.5%、教職員93.2%が十分評価し目標に達した。 ・いじめをアンケート等で伝えにくいと回答している生徒が11.5%いることは、今後の課題である。	・多彩な学校行事により、人間関係を学ぶ機会が多いことがよい結果につながっている。今後も自主的な集団活動を継続し、100%を目指していく。 ・少数ながらいじめをアンケート等で伝えにくい生徒がいるので、アンケートの内容や方法を見直すと同時に、日頃からささいな兆候やサインを見逃さずに個人面談やカウンセリングを行っていく。 ・いじめ対策委員会で気がかりな生徒等の幅広い情報を共有し、学年会や学科会と連携し、未然防止・早期発見・実効的かつ迅速な解決に努めていく。